

平成二十九年  
高等学校入学者選抜学力検査問題

第一部

国語

注意

- 1 問題は、 から  まであり、7ページまで印刷してあります。
- 2 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 3 問いのうち、「……選びなさい。」と示されているものについては、問いで指示されている記号で答えなさい。
- 4 問いのうち、字数が指示されているものについては、句読点や符号も字数に含めて答えなさい。

一 次の問いに答えなさい。

問一 (1)～(4)の——線部の読みを書きなさい。

- (1) 規則を守って図書館を利用する。
- (2) 絵画コンクールに作品を応募する。
- (3) 日を改めて話し合う。
- (4) うれしい知らせに心が躍る。

問二 (1)～(4)の——線部を漢字で書きなさい。

- (1) 会議室の壁に大型モニターをせつちする。
- (2) 目的地までのうんちんを調べる。
- (3) 皿に料理をもりつける。
- (4) 笛の合図でいきおいよく走り出す。

問三 次の漢詩を読んで、(1)、(2)に答えなさい。

<p style="text-align: center;">黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る 李白</p> <p>故人西のかた黄鶴楼を辞し 煙花三月 孤帆の遠影碧空に尽き</p> <p>惟だ見る長江の天際<small>（注）</small>に流るるを</p>	<p style="text-align: center;">李白</p> <p>故人西ノカタク辞シニ黄鶴楼ニ 煙花三月下ニ揚州ニ 孤帆、遠影碧空ニ尽キ 惟ダ見ル長江ノ天際ニ流ルルヲ</p>
---	---

(注) 揚州——中国にある都市。 惟——ここでは、「唯」の字でも同じ。

(1) この漢詩の形式を何と言いますか。 □ に当てはまる漢字一字を書きなさい。

□ 言絶句

(2) □ に当てはまる、——線部「下ニ揚州ニ」の書き下し文を書きなさい。

問四 次の文を読んで、~~~~線部「大きな」と修飾・被修飾の関係にあるものを、ア〜キから一つ選びなさい。

水族館の水槽の中で、大きなくらががゆらゆらと泳いでいる。

問五 次の文章を読んで、(1)〜(3)に答えなさい。

『源氏物語』には、七百九十五首の和歌が登場する。ストーリーの中心をなす恋愛の場面ではもちろんのこと、晴れの席で歌を詠みあうこともあれば、独り言をつぶやくように歌が詠まれることもある。

ここぞ、というときの和歌には、登場人物の思いが凝縮しているわけで、それが恋のゆくえを、大きく左右したりもする。心の通いあいから、すれ違い、かけひきにいたるまで、たった三十一文字の言葉にこめられたものは、かぎりなく豊潤で奥深い。

それなのに、こんな声をよく耳にする。

「現代語訳で読んだけど、源氏物語って、おもしろいわねえ。えっ、和歌？ うーん、ああここで歌のやりとりが行われたのかって思う、その程度かなあ」

次々と恋愛譚が繰り広げられる物語ゆえ、その筋を追ってゆくだけでも、十分楽しむことはできるだろう。けれど、それだけでは、もったいない。和歌は、心の結晶<sup>2</sup>のだから。それを小石のようにポンと飛び越えてしまうのではなく、氷砂糖をなめるように味わたつたならば、『源氏物語』の世界は、さらに豊かな表情を見せてくれることだろう。

(俵万智「愛する源氏物語」による)

(注) 晴れの席——普段とは違う、表向きの特別な場。

恋愛譚——男女が恋い慕う話。

(1) ——線1「三十一文字」とありますが、これは何を表していますか、文中から漢字二字で書き抜きなさい。

(2) ——線2「心の結晶」とありますが、これはどのようなものですか。「心」がたとえている内容を明らかにして、解答欄に示した表現につながるように、文中から十字以上、十五字以内で書き抜きなさい。

(3) 国語の授業で、『源氏物語』の「書かれた時代」と「作者」を次のように一文で発表するとき、に入る表現を考えて、十五字程度で書きなさい。

『源氏物語』は、です。

二 次の問いに答えなさい。

問一 次のA～Dの——線部を漢字に直したとき、「除雪」と熟語の構成が同じになるものを一つ選び、その漢字を書きなさい。

「除雪」

- A 友達は私にとって大切なそんざいだ。
- B 北海道は海産物のほうこだ。
- C オリンピックがかいまくする。
- D 湖岸と中島とをくわんこう船がおうふくする。

問二 (1)、(2)の文から、誤って使われている漢字一字をそれぞれ書き抜き、同じ読みの正しい漢字を書きなさい。

- (1) 海外から輸入した商品の売り上げが伸びて、会社の利易が上がった。
- (2) 調理実習では、先生の指示に従い、お互いに強力して作業をすることが重要だ。

問三 中学生の山田さんが、修学旅行で北海道に来た小学生たちに、北海道を紹介する観光ポラントイアガイドを行うことになりました。次は、参考にしたウェブページ(A)と、実際にガイドを行っている場面の一部(B)です。これらを読んで、(1)～(3)に答えなさい。

(A) ウェブページ

# ハマナス

- 分類** バラ科バラ属。
- 大きさ・高さ** 1.0～1.5m。
- 生育地等** 海岸の砂地に自生する。
- 分布** 北海道では、海岸に多く見られる。本州では、太平洋側は青森県から茨城県、日本海側は青森県から鳥根県辺りまで分布する。
- 花の特徴** 初夏、枝先に1～3個ずつ花を付ける。芳香があり、香水の原料がとれる。花卉の色が美しいので、観賞用に庭木として栽培される。
- 実の特徴** 直径2.5cmほどの球形で、黄赤色に熟す。
- 性質** 耐寒性が強い。
- 名前の由来** ハマナス(浜<sup>はま</sup>茄子<sup>なす</sup>)の名が定着しているが、ハマナシ(浜梨)が元の名と言われる。
- その他** 昭和53年、北海道の花に指定。

## 北海道の花「ハマナス」

ハマナスは、北海道110年を記念して一般公募を行い、「花の色が鮮明で葉も美しい」、「生命力が強い」など、北海道にふさわしい花という多くの意見により、昭和53年7月26日に、北海道の花に指定されました。

(B) 実際にガイドを行っている場面の一部

(山田さん) みなさん、こんにちは。私は、観光ボランティアガイドを行う山田です。

(小学生) よろしくお願ひします。

(山田さん) この辺りに咲いている赤い花は、「ハマナス」という花です。みなさんは知っていますか。

(小学生) 北海道に来て初めて知りました。

(山田さん) そうですか。でも、ハマナスは、東北や北陸などの本州でも見ることが出来ます。みなさんの学校の近くでも咲いているかも知れませんよ。

(小学生) へえ、帰ったら探してみよう。

(山田さん) 北海道では、道内各地の海辺の砂地に生えています。ハマナスは、今から約四十年前の昭和五十三年に、北海道の花に指定されました。ハマナスを見て、どのような印象を持ちましたか。

(小学生) 花の色が明るくてきれいです。

(小学生) 赤くて丸い実がかわいいと思います。

(山田さん) そうですよ。ほかに、「生命力が強い」と言う人もいます。その理由は、①からです。

(小学生) 質問があります。ハマナスは、ナスの仲間なのですか。

(山田さん) いい質問ですね。ハマナスの「ナス」は、元々は果物の「梨」の字を当てていました。「浜梨」がなまって「ハマナス」になったと言われています。ナスの仲間ではありません。

(小学生) ハマナスは、梨の仲間なのですか。

(山田さん) そうです。ハマナスも梨も同じバラ科の仲間です。果実を梨にたとえて「浜梨」と呼んだのでしょう。

(小学生) 面白いですね。

(山田さん) ②

(1) (B) から、山田さんは、観光ボランティアガイドを行うに当たって、何を心がけていることが分かりますか。最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 自分の考えを印象付けるために、重要な言葉を繰り返して話すこと。

イ ハマナスについて詳しく説明するために、様々な比喩を用いて話すこと。

ウ 自分の考えを確実に伝えるために、自分の意見を中心に話すこと。

エ 小学生たちの興味や関心を引き付けるために、質問を交えながら話すこと。

(2) (B) の ① に当てはまる表現を、十五字以上、二十字以内で書きなさい。ただし、(A) から理由として適当な文を二つ取り上げ、まとめること。

(3) 山田さんは、(B) の最後で、ハマナスの特徴を生かした利用の仕方について、(A) の内容を参考にして二つ紹介しました。(B) の ② に当てはまる表現を、解答欄に示した表現につながるように、一文で書きなさい。ただし、小学生たちに伝わりやすいように言葉を言いかえること。

三

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

これは、ある職場で働く「私」が、別の職場で働く二歳年下の「陽子ちゃん」と知り合ったときの話です。

陽子ちゃんと知り合ったのは近所のパン屋だった。

仕事の帰りに、あるいは週末に、家で食べるためのパンを買う。それにはこの店の、小麦の匂いのふんと立ち上がる堅いパンがいちばんだった。小麦と水と天然酵母だけで焼かれた素朴なパンだ。特に宣伝しているわけでもなさそうなのに、店には客足が途絶えることがない。普段着で、ひとりで買いに来る女性客が多く、地味なパンがひっそりと売れていく。世の中は私<sup>1</sup>が思っているよりも上等なのかもしれない。この店に来ると、そう思うことができた。

その小さな店で一度だけパン教室が開かれた。

天然酵母パンを焼いてみませんか——そう書かれた貼り紙にどうして振り向いたのか今となつては思い出せない。パンは買うものと決めていた。自分で焼く暇なんかなかった。それなのに、気がつくと、参加しますと申し出ていた。普段はパンを焼くどころか料理もせずに済ませたいほうだから、罪滅ぼしみたいな気分だったのかもしれない。

参加者は女性ばかり十五、六人だった。パンを焼くのがまったく初めてなのは、驚いたことに私ひとりだったようだ。みんな、家でパンなんか焼くんだろうか？ いつ？ なののために？ 聞いてみたい。聞いてみたい、と思いつながら、篩<sup>ふるい</sup>に取った小麦を延々とかきまわし続けた。こつとやってフスマを取り除くのだそう。休みなく粉をかきまわすうちに、掌<sup>てのひら</sup>は赤くなり、額にはうっすらと汗をかいていた。ふと顔を上げると、台の端で店の主人が黙々と小麦を篩<sup>ふるい</sup>い続けている。無骨な求道者<sup>ぐどうしや</sup>のようにも見えた。

想像していた優雅な教室とは違い、課される作業はひたすら地道で厳しかった。しかも、主人がいちばん熱心なのだ。手を休めるわけにもいかなかった。いくつかの班に分かれてけつこいな重労働に励んでいたせいで、別のグループの人とは言葉を交わす機会もないほどだった。だから、実習中の陽子ちゃんの様子を私は見ていない。見ておきたかったな、と思う。柔らかな髪を白い頭巾に包んで一心不乱に粉をこねていたんだろう。

教室の終わりに、焼けたパンを試食してひとりずつ感想を述べた。私はへとへとだった。パンはたしかにおいしかった。イベントとしては成功かもしれない。しかし、あの工程を思うととてももう一度自分で焼く気にはなれなかった。

楽しかったです、おいしかったです、お店のパンが自分でも焼けるなんて感動しました——参加者たちが順々<sup>3</sup>につるつるした感想を述べていき、いよいよ私は戸惑った。楽しいというなら、のんびり映画でも観<sup>み</sup>ているほうが楽しい。おいしかったけれど、窯から出したばかりで、しかも巔<sup>ひげ</sup>目<sup>め</sup>が入って三割増にはなっている。だいたい、手取り足取り教えられてなんとか焼き上がったのだ。余裕のある感想などまるで出てこなかった。

「私は自分では決して焼かないことにしました。この店でずっと買い続けます」

凜<sup>りん</sup>とした声でそう宣言した人がいた。まったく同じ気持ちだったから、私はうつむいていた目を見て発言者の顔を見た。髪の毛の長い、可愛い女の子だ。それが陽子ちゃんだった。

帰り道で一緒になった。

「びつくりしたなあ。いくら挽<sup>ひ</sup>きたたてがおいしいからって毎朝その日の分だけ小麦を製粉するなんて」

前を向いたまま陽子ちゃんがいった。私は隣で小さくうなずいた。

「それをぜんぶ手で漉<sup>こ</sup>すんだもの。篩<sup>ふるい</sup>にかけて、混じってるかどうか分からない外皮をくま

なく探す」

毎日そこから始める人がいるのだ。私たちは言葉少なに商店街の中を歩いた。

上等だと思っていた世の中を、実はなめていたのかもしれない。適当にやっていたら、適当にやっていたら、あつていける。社会人生活十年目にしてそんなふうには思いついていなかった。適当にやっていたら、あのパンは焼けない。いつどんなときに食べてもしみじみとおいしいものが、適当につくられるわけがなかった。

世の中にはいろんなすごい人がいて、ぱつと思いつくアイデアのすごい人もいれば、地道な作業を淡々とこなすパン屋の主人みたいな人もいる。あたりまえといえればあたりまえなのに、ぱつとするほうに目を奪われて、パン屋の主人に気づかない。少なくとも私はパン教室に参加しなければずつと見過ごしたままだったろう。

「今日は参加できてよかったよ」

陽子ちゃんが放心したようにつぶやいた。

「すごい人に会々と敬虔な気持ちになるね」

私たちはふたたびうなずきあった。

(宮下奈都「転がる小石」による)

(注) フスマ——小麦を粉にする時に出る外皮などのくず。

無骨——ここでは、「信念を貫き通すさま」のこと。

求道者——一つの道を極めようとして修行する人。

敬虔——深くうやまい、態度をつつしむこと。

問一——線1「世の中は私が思っているよりも上等なのかもしれない」とありますが、「私」が、このように思ったのは、どのような様子を目にしてきたことによるのかを、次のようにまとめるとき、に当てはまる表現を、十字以上、十五字以内で書き抜きなさい。

特に宣伝しているわけでもなさそうなのに、いつどんなときに食べてもしみじみとおいしい素朴なパンを求める人たちで、近所のパン屋に様子。

問二——線2「とてももう一度自分で焼く気にはなれなかった」とありますが、「私」が、このように思った理由が分かる最も適当な一文を文中から抜き出し、その最初の五字を書きなさい。

問三——線3「つるつるした感想」とありますが、この表現から、「私」が、パン教室の参加者たちの感想を、どのように思っていることが分かりますか、最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

ア 思いやりのないもの。

イ あたりさわりのないもの。

ウ 型破りなもの。

エ その場にふさわしくないもの。

問四——線4「少なくとも私はパン教室に参加しなければずつと見過ごしたままだったろう」とありますが、「私」がパン教室に参加したことによって、世の中で仕事をするように対する「私」の考え方はどのように変化しましたか。その変化が分かるように、九十字程度で説明しなさい。

四

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

昔、唐の絵かきに戴嵩たいそうといふあり。牛をえものにてかく事上手なり。ある時、角を振り尾を立てて、牛どもの戦ふをかく。ひとしほうるはしくいできたりと思ひて、人々に見せあへり。その後、牛つかふ小童の、野飼ひに出でたるにこの絵を見せ、汝なんじが朝夕つかふ牛に、よく似たるかといひて問ひし時、牛飼ふ小童、これを見て笑ふ。「いかに。」となれば、「牛の戦ふ時は、尾を立てずして腹に尾を付くるものなり。この絵は尾を立てたれば、あやまりなり。」といひし。戴嵩驚き、げにもと感じ、その絵を破りたり。

<sup>3</sup>まことに名人は、何事によらず、戴嵩のごとくありたきものなり。戴嵩ほどの牛かきなれども、まことの牛に手なれぬ事なれば、あやまりもやあるらんと、朝夕なるる牛飼ひの小童に見せたるは、名人の戴嵩なればこそ。

(中川喜雲「私可多咄」による)

(注) えものにてかく事——最も得意なものとして描くこと。ひとしほ——一段と。

牛つかふ小童——牛飼いをしている子ども。「牛飼ふ小童」、「牛飼ひの小童」も同じ。

驚き——はっと気が付いて。げにも——もつともだ。

手なれぬ——扱ひ慣れていない。

あやまりもやあるらん——誤りもあるかもしれない。

問一——線1「いひて問ひし時」とありますが、このときの戴嵩の言葉を全て抜き出し、その最初と最後の四字をそれぞれ書きなさい。

問二——線2「あやまりなり」とありますが、小童が戴嵩の絵の誤りについて話した内容を次のようにまとめるとき、①、②に当てはまる表現を、それぞれ五字以上、十字以内で書きなさい。

戦っているときの牛は、尾を立てず ① けれども、戴嵩の描いた絵の中の牛は、尾を ② 。

問三——線3「まことに名人は……ありたきものなり」は、「本当に名人というものは、どのようなことについても例外なく、戴嵩のようであってほしいものだ」という意味ですが、ここで筆者は、名人にはどうあってほしいと考えていますか、最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 自分の作品の手本となるものを毎日観察するほどのひたむきさをもってほしい。
- イ 自分の作品を人々に見せる機会を増やし、多くの人々に広める努力をしてほしい。
- ウ 自分の作品に対する他人からの意見を受け入れるような謙虚さをもってほしい。
- エ 自分の作品の仕上がりに関わらず、作品を大切にするような心がけをもってほしい。